全国の棚田保全・中山間地域活性化のための情報紙

棚田ライステラス

全国棚田（千枚田）連絡協議会

第47号 2007.11.15
（年3回発行）
発行／全国棚田（千枚田）連絡協議会
編集／ふるさとネットワーク
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937／FAX 03-5389-0078
http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/

第13回全国棚田（千枚田）サミット
閉会式は子どもたちがテーマソングを歌って踊った

第13回全国棚田（千枚田）サミット
現地見学、茂木町入郷石畑の棚田

第13回全国棚田（千枚田）サミットを終えて

栃木県知事　福田富一

Message

「第13回全国棚田（千枚田）サミット」が平成19年8月24、25日の2日間、栃木県茂木町において、全国の棚田を有する市町村、棚田保全に取り組む団体等、約1000人の関係者の参加の下で、盛大に開催されました。

24日には基調講演や政策提言が行われましたが、オープニングには地元の茂木町立中川小学校の「わかあゆキッズ」が、昨年度の開催地、宮崎県日南市立酒谷小学校の児童と合同で、テーマソング「棚田へ行こう」などを元気に歌い、また、栃木県立宇都宮白楊高等学校農業クラブの棚田保全活動等の事例発表が行われるなど、若い力によるアピールも展開されました。

25日には日本の棚田100選に選ばれている茂木町「石畑の棚田」や那須烏山市「国見の棚田」等への現地見学の際、地元中学生が案内役を受け持つなど、ほほえましい一幕もありました。

私も「〝夢大地〟農山村の地域資源を次世代に」と題して講演を行い、元気で個性豊かな地域づくりを目指す上で、棚田等の地域資源の保全や継承がいかに大切であり重要であるかを、茂木町民をはじめとする関係者と一緒に、県民はもとより全国に向けて情報発信することができました。

このサミットを契機に、棚田を持つ自治体がネットワークを組み、棚田が果たす役割を未来へ向けて情報発信することで、中山間地域の大切さへの理解や交流の輪がさらに広がり、地域資源等を活用した魅力ある地域づくりが促進されればと思います。

本県といたしましても、このネットワークを茂木町をはじめとした中山間地域の振興に活かしていきたいと考えております。

サミットの開催に当たりまして、全国棚田（千枚田）連絡協議会並びに第13回全国棚田（千枚田）サミット茂木町実行委員会をはじめ多くの皆様方の御尽力をいただきましたことに敬意を表し、御礼申し上げます。

特集

第13回全国棚田（千枚田）サミット in栃木県茂木町　8月24、25日開催

暑い日差しのもと、全国31都道府県から2日間で延べ1300名余の人々が集結した。そして、今年も棚田への熱い思いが会場にみなぎり、茂木町のみなさんの心からのもてなしに笑顔があふれていた。各プログラムごとに参加者から、感想やレポートを寄せてもらった。

開会式。全国棚田（千枚田）連絡協議会会長　宮崎県日南市　谷口義幸市長

開催プログラム

8月24日(金)

午前
- 全国棚田（千枚田）連絡協議会理事会
- 全国棚田（千枚田）連絡協議会総会・首長等会議
- ツインリンクもてぎ視察

午後
- オープニングセレモニー／開会式
- 基調講演　福田富一栃木県知事
- 県内の事例発表
  - ①宇都宮白楊高校生徒による棚田保全の取り組み
  - ②茂木町のむらづくりと棚田オーナー制度
  - ③那須烏山市国見地区の棚田保全活動
- 政策提言
- 全体交流会

8月25日(土)

午前
- 現地見学会【ゆずの里コース】ゆずの里→入郷石畑の棚田→国見の棚田
  【美土里館コース】入郷石畑の棚田→国見の棚田→美土里館　茂木町内
- 閉会式（共同宣言／次期開催地あいさつ／アトラクション／地域特産品等の物産展）

小中高校生が主役の棚田サミット

栃木県茂木町農林課　伊藤　崇

「ついにこの日がやってきた！」そんな気持ちで迎えた8月24日の朝、2日間にわたる第13回全国棚田（千枚田）サミットが幕を開けました。1年も前から「雨が降ったらどうしよう…」と心配していましたが、当日になってみれば立っているのもツライような猛暑で、逆に熱中症が心配されるほどでした。そんな暑い中、北は宮城県から南は鹿児島県まで、全国31都道府県から、2日間延べ1300名余の方々が集まりました。

今年は、「美しい土の里から～棚田から明日への提言～」をテーマに、棚田の明日を担う〝子どもたち〟にスポットを当て、サミットの主役として頑張ってもらいました。

開会式に先立つオープニングセレモニーでは、茂木町立中川小学校の児童と、昨年開催された日南市立酒谷小学校の児童、合計160人による「棚田に行こう」（サミット公式テーマソング）の大合唱。迫力満点の歓迎に参加者も大興奮！一気に会場が盛り上がりました。

その余韻に浸りながら開会式、基調講演が行われ、県内の事例発表では、宇都宮白楊高校生による棚田保全の取り組み、茂木町むらづくりと棚田オーナー制度、那須烏山市国見地区の棚田保全活動の発表が行われました。ひと際注目を受けたのは、やはり高校生の発表で、皆さん熱心に聞き入っていました。続けて、広域的な鳥獣被害対策の必要性を、ユーモラスな寸劇を交えながら提言しました。

その後、屋外特設ステージにて、愛泉太鼓、河井ささら、飯野歌舞伎の3団体が郷土芸能を披露し、参加者を楽しませてくれました。

全体交流会では、ホンダのASIMOが登場して参加者を歓迎してくれました。そして、ホテルのシェフによる地元食材を使った料理、むらづくり団体による手打ちそば、天ぷら、アユの塩焼きなど、茂木町の地産地消料理を味わっていただきました。

2日目の現地見学会では、大型バス16台に分乗して、入郷石畑と国見の棚田、ゆずの里、美土里館を見学しました。ここでは中川中学校の生徒たちが大活躍！バスの中では、写真を見せながら見学地を説明したり、窓の外に広がる茂木町の里山を紹介したりと、大人顔負けの案内役を務めてくれました。さらに入郷石畑の棚田では、この日のために一生懸命育てた野菜を参加者に振舞ってくれました。参加者も大変喜んでくれたようです。

また、入郷石畑の棚田、ゆずの里では大きな歓迎看板を作ったり、国見の棚田では和太鼓の演奏をしたりと、それぞれの地域の特色を活かしたおもてなしをしていただきました。

現地見学後、閉会式会場である「道の駅もてぎ」に続々とバスが到着し、まさに真夏の太陽が照りつける中、授産施設で育てた冷たいスイカが振舞われて一息ついた後、閉会行事が始まりました。共同宣言では、地元後継者を代表して、入郷棚田保全協議会の塩澤康治さんが、棚田を次世代へ継承していくことを宣言しました。そして、その思いは次回開催地である長崎県雲仙市・長崎市へと引き継がれていきました。

終了後、全国各地からご参加頂いた皆様より、ご意見や感想、ねぎらいのお手紙を多数頂き、ありがとうございました。また、運営にご協力くださった皆様に厚く感謝申し上げます。

皆さん、また来年、長崎県雲仙市・長崎市でお会いしましょう！（来年はボクが主役です！笑）

棚田サミットテーマソング　♪棚田へ行こう

作詩：シングアウトキッズ
作曲：鈴木　やすこ

晴れた日は棚田へ行こう　じいちゃんの軽トラ乗って
かあさんもあとから来てね　ばあちゃんのおにぎりまってるよ

春に植えた小さな苗が　太陽の下でのびるように
ここで育ったぼくたちも　胸はって生きてゆく
明るい空を見上げながら　坂道をかけ足で登るんだ
だから晴れた日は棚田へ行こう　みどりの風を追いかけながら
すみれの花や虫たちも　棚田へおいでとさそってる

秋になると棚田の稲穂が　金色に光るように
夢をつないでぼくたちも　キラキラかがやいてく
石垣・あぜ道・川のせせらぎも　みんなぼくたちの　宝物
だから晴れた日は棚田へ行こう　友達もさそって行こう
みどりの風やれんげの花も　棚田へおいでとさそってる

晴れた日は棚田へ行こう
　ぼくたちの守りたい大切なふるさとの棚田へ！

～棚田から明日への提言～

栃木県茂木町　町長　**古口　達也**

「棚田サミットは、具体的な中山間地域の共通課題や展望を熱く語る場にしたい」。昨年、日南サミットに参加した時に、こう感じました。中山間地域の共通課題については、もうすでに共通認識を得られたと思います。これからは、具体的な行動に移すべきだと感じました。

今回のサミットで、何とか具体的な提言をまとめられないだろうかと、先に棚田連絡協議会員からアンケート方式で意見書をいただき、首長等会議で提言書を提出して議論しました。この提言書の内容は、今後の国や関係機関への要望活動に活かしていきたいと考えています。

提　言　書

1　税源偏重や税収格差を是正するための抜本的税制の改正

A　地方法人2税（法人事業税、法人住民税）の見直し

B　環境税の創設とその中山間地への重点配分

2　棚田の多面的、公益的機能の持続について

A　中山間直接支払い制度の普及・定着の促進と、将来的な継続

B　中山間地や棚田の保全に対する企業の社会的責任・貢献の明示

3　野生鳥獣害対策について

A　景観に配慮した里山の整備と、里山保全のための官民一体となった体制の構築

B　県境を越えた広域連携事業の積極的な導入

C　野生鳥獣の個体調整を図るために、自衛隊の活用を可能とする法解釈、あるいは、法の改正

以上、要望提言いたします。

栃木県・福田知事の講演は多彩だった。

その中から、とくに印象に残ったのは「残したい栃木の棚田21」と「とちぎ夢大地応援団」である。ふるさとの原風景として都市住民にも親しまれている棚田をこれからも守っていくために、県では21世紀に残すべき棚田29地域を、平成14年に認定したという。うち13地域がサミットの舞台となった茂木町に集中している。

全国の水田の約8％を占めている棚田を、いつまでも残したい、守りたいと思うのは、山村地帯の共通した願いだろう。しかし過疎化・高齢化の荒波に翻弄され、後継者もままならぬ現状では「夢のまた夢」でもある地域が少なくない。

私が移住した北アルプス山麓の信州・小谷村は、棚田が9割を上回る豪雪地帯だ。人口3600人規模の寒村だが、昨年から棚田オーナー制度を始め、今年は5集落で延べ200人の家族・ボランティアが田植えや稲刈りに関東・関西から集まった。就学児童が極端に少なく、高齢化率50～70％の集落に、華やいだ若者や親子の声がこだまするのは、年に2～3回とはいえ実に楽しいものである。ただオーナー田の管理労働に耐えられるシルバー世代が健全なうちは、なんとか希望が持てるが、この光景がいつまで維持できるか、各集落とも見通しはつかない。

「都市と農村をつなぐボランティア活動」
夢大地応援団に期待する　―福田知事の基調講演から―

農政ジャーナリスト／個人正会員　**吉田　忠文**

その点で平成17年1月からスタートした夢大地応援団の話は、わが村にも適応できるか、貴重なヒントになった。「農業・農村の持つ豊かな地域資源の保全」という共通目標のために「ボランティアを希望する都市住民」と「それを必要とする地域住民」を行政が仲立ちして組織化するもので、各種オーナー制度に限らず、ホタルの里の会、虹色の里あじ採協議会、清流を守る会、森の里づくり、田んぼの生き物観察会など、すでに幅広い活動が行われている。首都100キロ圏内にある栃木ならではの多様な活動といえよう。

小谷村を含む長野県北安曇郡は〝陸の孤島〟といわれてきた。だが孤島ならではのアイデアも生れる。新潟県糸魚川市を含む大町市・松本市・塩尻市など、古道・塩の道を軸とする身近な都市住民を対象に「緑と雪と温泉のふるさと応援団」の組織化を、まずは村に提案していきたい。

茂木町全国棚田サミットの会場は棚田に熱い思いを寄せる人達で溢れていました。

全国棚田サミットには13回すべて参加している私ですが、周りからは呆れられたり、近頃では「えらいネー」とか言われて何だか気恥ずかしい気持ちです。

12年前は殆ど無名の「棚田」でしたが、少しずつ市民権を得て来たように思います。都市住民の中にはその景観に癒されると言って棚田を目的地に旅をする人や、過酷な農作業に思いを馳せ保全活動やオーナー制に参加して田んぼに入る人達も多くなっています。農家への直接支払制度も始まり、田んぼを一日も早く放り投げたかった農家の方々が、「もう少し頑張ってみるか」と気持ちが変わったと仰る、等々、棚田サミットが導いた道はとても大きいと思っています。

茂木サミットの事例報告にあった栃木県立宇都宮白楊高校の農業クラブの活動もその一つではないでしょうか。

事例発表

宇都宮白楊高校生徒による棚田保全の取り組みに寄せて

NPO法人棚田ネットワーク会員／個人正会員・神奈川県横浜市　**木戸　幸子**

高校生が地域に入って積極的に復田等の活動をしている場所は茂木町小深「岩ノ作棚田」です。この活動は白楊高校とNPO法人棚田ネットワーク（私も会員）地元小深集落の皆さんとでそれぞれが得意分野を出し合って共同作業を行っているものです。活動報告にもありましたが、「岩ノ作棚田134枚の地形測量調査によって、その成果が入口に立てられた立派な案内板となりました。また高校生のアイディアで野鳥の止まり木が設置され、サシバがよく利用しています。

一方、都市住民の棚田ネットワークは「茂木プロジェクト」を立ち上げ、休耕田にハッチョウトンボを呼び寄せる作戦をやったり、田んぼの生き物調査や稲を作らなくても棚田を保全できる方法を検討するなどの活動をしています。また活動の企画や活動費の援助等も行っています。

地元の皆さんは高校生や都市住民との作業に「元気が出るよ」と仰って木々を伐採したり、除草をやられたりで見事な棚田景観が蘇りました。毎年、棚田地域に光を当て開催される棚田サミットの道がますます広く展開されることを願っています。

事例発表

「茂木町のむらづくりと棚田オーナー制度」に寄せて

長崎県長崎市　大中尾棚田保全組合　組合長　**広山　昭作**

棚田オーナー制度について、家族ぐるみの余暇の過ごし方という視点でとらえてみたいと思います。

人は、それぞれ考え方や趣味や目的は異なっていると思いますが、山間（やまあい）の温泉で、ゆっくりと心ゆくまで過ごすのも良いでしょうし、自然の織りなす風景の中で淡々と散策することも良いでしょうし、また思い出としても残るでしょう。さらには、人工的に造り上げたリゾート施設でスケールの大きさや賑やかさ等を見分しながら遊んだり、ショッピングするのも楽しいことでしょうし、いずれにしましてもそれなりに貴重な体験ができることと思います。

それでは、オーナー制度を利用した場合はどうでしょう。

土にまみれ、慣れないきつい作業を行い、汗を存分に流しながら、6月上旬に田植え、7月中旬の草取り、畦切り、9月下旬の稲刈り、10月上旬の脱穀とおいしいお米を得るために様々な作業を行います。一方、四季折々の風景の中でいろんな体験や発見、感動を見い出すこともできます。特に小中学生には貴重で大切な体験だと思いますし、体験している子どもたちの笑顔や目の輝きは印象的であります。

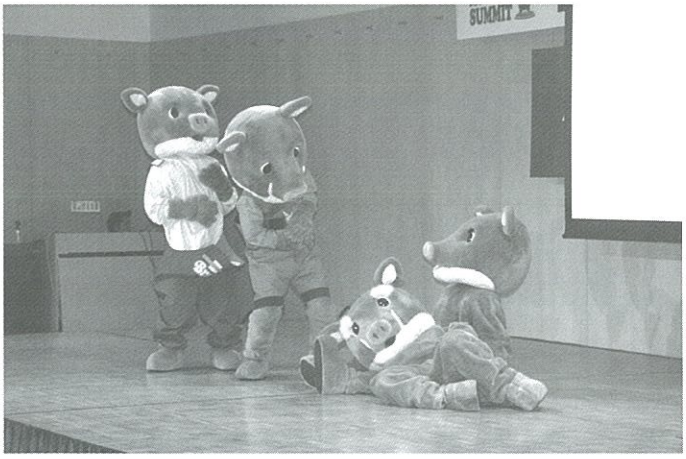
また、作業終了後には、公民館に集まり、田舎料理を味わいながら大勢の方たちとコミュニケーションができ、毎回のことながら理想的な宴会になっています。

棚田オーナー制度は、現代人が忘れかけている、自然や食べ物のありがたさを感じ、言葉にはうまく表現することができませんが、人にとって、とても大切なものを得ることができる機会ではないでしょうか。

わたしたち「大中尾（おおなかお）棚田保全組合」も、長崎市外海（そとめ）地区にて棚田オーナー制度を行っています。家族ぐるみの余暇の過ごし方として、是非チャレンジしていただきたいと思っています。

茂木町のむらづくりの発表は、農村レストラン「そばの里まぎの」店長、石川修子さんが紹介

宇都宮白楊高校生徒による棚田保全の取り組み発表



政策提言の鳥獣害問題に関し、イノシシ劇が披露され、盛り上がった

栃木県内の中山間地域の市町がPR

フォトレポート

那須烏山市国見の棚田では地元、烏山太鼓のお出迎え

受付には続々と参加者が集まった

暑いなか、石畑の棚田に用意されたテントの下でもてなしを受ける

石畑棚田のなか、サックス奏者・坂田明さんの音色が流れた

見学会の棚田では、子どもたちが地元の食べものやスイカなどを配ってくれた

交流会には、ホンダの ASIMO 君が登場し、会場をわかせた

閉会式。子どもたちが手作りの看板で生きものを紹介

2007 MOTEGI SUMMIT

サミットロゴマーク、モテタン

交流会前のアトラクション、愛泉太鼓。平成 11 年に茂木愛泉幼稚園がはじめ、卒園生が中心にユニットを結成

交流会前の多彩な地元アトラクションに参加者は目を輝かせた

アトラクションの一つ、飯野歌舞伎。明治の中頃にこの地ではじまり、戦後休止していたものを昭和 61 年に復活

現地見学、那須烏山市国見の棚田

アトラクション、河井ささら。毎年、仲秋の名月の日に五穀豊穣を祈り、獅子舞を舞う

メイン会場には、栃木県内の各市町村のブースが並んだ

事例発表

「那須烏山市国見地区の棚田保全活動発表」レポート

鹿児島県土地改良事業団体連合会　地域支援課　地域支援係　**藤山　燈弥**

「棚田の景観を守るために」と題し、那須烏山市、国見棚田保全組合の小森さんより事例発表がなされた。

国見の棚田は宇都宮市から約40km、那須烏山市中心部から約8km離れた中山間地域にあり、面積は2.2ha、50枚の棚田がある。平成12年度に直接支払制度を受け、農道や水路の管理を共同作業で行い、棚田の保全に取り組んできていた。

「日本の棚田百選」や「残したいとちぎの棚田21」にも選ばれているが、近年高齢化が進み、遊休農地が増え、棚田の景観や環境などに悪影響を及ぼしているため、保全組合では、棚田の美しい景観を守り、棚田を通した国見地域の活性化に向け、取り組みを行っている。

中山間地域における農村環境、農地の維持管理について集落全戸を対象にワークショップを行い、将来計画樹立に向けた話し合いを行い、棚田を活かした都市農村交流の充実を図っていくこととした。地域だけで活動するには限界があるため、平成16年度からとちぎ夢大地応援団活動事業に取り組み、県内外より、ボランティアの支援を受けて、棚田の環境整備や農村景観の維持管理を行っている。

はじめは戸惑いのあった国見地域の人々も自分たちの棚田の環境整備のためにたくさんのボランティアが来てくれたことに感謝し、集落外の人たちとの交流は集落全体の刺激につながり、また薄れつつあった集落のまとまりができ、環境整備の大切さと農村景観の維持管理の必要性への理解が深めた。

国見地区の都市農村交流としては、那須烏山市まちづくり研究会メンバーとともに棚田の景観を活かした取り組みとして、今年の5月に棚田に100匹のこいのぼりを横断するように設置し、「棚田と鯉のぼりまつり」を行っている。

また国見では、みかんを栽培しており、毎年多くの方がみかん狩り体験等に参加している。今後も美しい棚田の保全と「棚田とこいのぼり」や「みかんと棚田」の景観に配慮した取り組みを引き継いでいきたいとしている。

茂木町では、小学校や中学校、高校の授業の一環として、棚田で米づくりや野菜づくりを体験したり、清掃作業等のボランティア活動を行うなど、棚田と関わる活動を活発に実施していた。こういった活動を通じて棚田が農作物を育むだけでなく、生き物や植物、水源など環境までにも働きかけていることを学び、棚田を守り、維持していこうと努力していることを痛感した。地域交流の一環として、また情報交換の場として、今後の棚田の保全活動に役立てていきたい。

那須烏山国見地区の事例発表から

来年は、長崎県で「待っとるばい！」。交流会のステージから

交流会ではみんな笑顔。地元の味覚をほおばり、「おいしい！」

全体交流会の楽しみと活用
—第13回全国棚田サミット(茂木)で想う—

個人賛助会員・新潟県新潟市　酒井　英次

①交流会前の郷土芸能公開

各地の芸能公開も毎回の楽しみの一つです。

(1−1)愛泉太鼓

平成11年に幼稚園の教育の一環として、始めたとのこと。子供達の撥刺とした、一所懸命な姿に楽しくなり、交流会の幕開きでワクワクする気持ちが更に高まりました。

(1−2)飯野歌舞伎

明治中期より受け継ぐという、真に迫力ある舞台でした。〝白浪五人男〟に、周りからは、「これは、もう、プロ級ですね」という声も聞かれました。

(1−3)河井ささら

永保3年(1083年!)頃からの伝承というから、これぞ正しく民俗芸能の正当派というべきものでしょう。一人立ち三頭の獅子と周囲に花笠を着けた、ささらすりが立ち、五穀豊穣を祈る舞です。今回は時間の関係で、1／3の15分での舞でしたが、この芸能の素晴らしさが充分に伝わりました。

これからも次代への伝承を着実に行ってゆくことで、それに伴う、〝棚田文化〟も、しっかりと受け継がれることでしょう。

——少々残念だったのは、舞台が低く、小さな舞手がよく見えなかった事です。舞台まわりの設定(観客をもっと下げる等)にも工夫したい。また、同様に交流会場での〝アシモ君〟の登場でも舞台が低く見えない人が大勢いました。せっかくの出し物が、もったいないと思います。

②全体交流会

(2−1)旧知の人との再会

(イ)日頃、各地で会う人には、特に新しい情報交換が無い限り、「いやーまた会いましたね」と笑って挨拶する程度で済ませます。

(ロ)年に一度サミットで会う人には、握手をして、互いに元気を確かめて、情報交換をします。「この前、○○棚田を見て、良かったよ」等と、写真を見せたり、資料を渡します。

(2−2)新しい人との出会い

(イ)県外の人　特に次のサミットの開催地やこれから調査、取材を行う計画のある地域の人には、積極的に声を掛け、情報を得る努力をします。また、資料も極力お願いします。

(ロ)同県の人　同県人でも、またよく行く県内の地域の人でも、初めて会う人もかなり出席しています。「あの有名な棚田の耕作者の方ですか!」という、感動的な出会いもあります。また、各市町村の役場の人との会話も、良い情報を得るには欠かせません。後日、種々な資料を送ってもらえる事も多いです。

(ハ)同業者(?)を探す　写真をやっている人なら、写真をやってそうな人に的をしぼって話をします。うまくゆけば、正にツー、カーで豊富な情報交換が可能となります。

(二)知人に他の知人を紹介する

今回、これを意識的に行いました。久しぶりにサミットに顔を見せた同郷のIさんに、今まで自分が知り合った人を出来るだけ、次々に紹介したのです。棚田に対し同じ思いを持つ人の連携を図るのは、我々の活動にとり有効な事と思います。「興味深い人がいましたか?」「良い情報交換が出来ましたか?」

(2−4)地元のおいしい物に舌鼓を打つ

これが皆さんの最大の楽しみかも知れません。特に地元の人が地元で穫れた食材を使っての郷土料理をいただくのは、至福の時であります。今回は、おソバがおいしかったです。肉や地酒が良かったという声もありました。御馳走様でした。

③全体交流会後の二次会

交流会の後で有志約15人が集まり、更に濃い話し合いがありました。声を掛けてくれた、Tさん、御世話様でした。

現地見学会

「ゆずの里コース」に参加して

長野県千曲市　農林課　農業振興係長　**鹿田 敦己**

平坦な道路から沢筋の狭い道をバスが登りはじめて20分くらい経ったろうか、V字型の沢と山並みが迫ってくる。見上げた急傾斜の山の斜面には、ゆずの木とオーナーの名札がかかっていた。

そして何より驚いたことは、見学者を迎えてくれた皆さんの笑顔！笑顔！笑顔!!　ここがあの有名な「ゆずの里かおり村」。茂木町のどんづまりの元古沢地区。ここはかつて過疎の進行により、集落自体がなくなる危機に立たされていたのだという。訪れるのは郵便局員か新聞配達の人くらい。農地は荒れ、嫁さんも来ないこの里になんとか人を呼ぼう、と立ち上がったのが、「ゆずの里かおり村会長　石河（いしかわ）　智舒（とものぶ）さん」だ。

毎日のように地域を歩き回り、樹齢100年を超える「ゆず」の大木をヒントに、集落全戸参加の地域おこしに乗り出したそうだ。今では、6名の嫁さんと1名の婿さんが一緒に活動しているとのこと。

石河さんの言う「か・き・く・け・こ」訓として

○金をかけずにあるものを活かせ…ゆずの木→観光、オーナー制、加工品、自然そのもの等
○気力…「減気」を「元気」に変える
○工夫…知恵を出す、どうすれば喜んでもらえるか。大ボラふき大会等
○健康を大切に
○心・後継者を大切に…家族同様にもてなす。帰りにはタダで自家用野菜を持たせる。

◎

茂木町の皆さんに共通する「人を家族同様、それ以上に迎え入れ、もてなす心」に感動しました。またわが身を振り返り、これからの地域おこしの最大のポイントは「もてなしの心」だと、学ばせていただいた「目からうろこが落ちる」ような棚田サミットの見学会でした。

ありがとうございました。

現地見学会

「美土里館コース」に参加して

新潟県十日町市農林課　課長補佐　**本山　敏雄**

9年ぶりに棚田（千枚田）サミットに参加した。印象は、ずいぶんと華やかになったなという感じ。

猛暑の今年の夏にふさわしく、朝から照りつける朝日を浴びて現地見学会行きのバスに乗り込んだ。向かうは「入郷石畑の棚田」と「国見の棚田」、そして茂木町が誇る堆肥化施設「美土里館」。

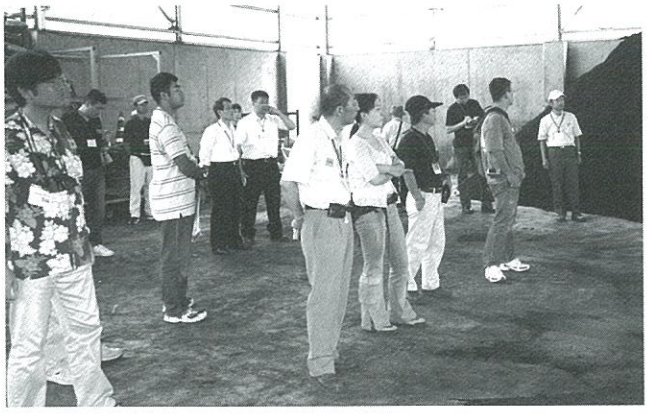
急な坂道を大型の観光バスが登っていくと、きれいに草が刈られた棚田が目に入ってきた。そこでは、小学生を含む多くの地元の方々が、冷たいトマト・きゅうり漬け、カボチャを用意して待っていてくれた。そして何故か棚田の斜面では、坂田明氏がサックスのソロ演奏をしており、周辺の山々に響いていた。

「国見の棚田」へは、更に急斜面の道路を登ること10数分、そこでは地元の人々による太鼓の演奏が出迎えてくれるのだった。ここの棚田は大型機械が入る余地のない、正に手作業による耕作により維持されている様子だった。

そして、堆肥化施設「美土里館」へとやって来た。担当者の軽妙洒脱な説明で笑っているうちに終わってしまった。この施設で特筆すべきは、自然のバクテリアを利用するため堆肥の材料として広葉樹の落ち葉を利用していること、更にその落ち葉を地域住民から購入していることであった。その落ち葉集めの担い手は主に高齢者であることから、「森がきれいになる」「高齢者の生きがい対策」の面からも多大な効果があるということだった。

そして、この現地見学会において最も感動したことは、バス車内において地元の中学生の皆さんから様々な趣向を凝らし案内をしていただいたことである。

どうもありがとうございました。



第1回棚田サミット開催地から第13回目を見つめて

高知県檮原町産業振興課長　大崎　光雄

私たちに身近なものの周期は、なぜか「12」が多い（干支や時刻や一年）。今年の茂木サミットは13回目、つまり再び新しい循環に入る回数である。

私は、茂木サミットが「再生サミット」と呼ぶにふさわしい催しだと感じた。と、同時に「原点に立つ」大切さを考えさせられたサミットでもあった。

茂木サミットの資料に第1回目に決議された全国棚田（千枚田）連絡協議会の「設立趣意書」が載せられていたからだ。茂木の皆さんが、何を訴えたくあの主旨書を掲載されたのかを想像するのもまた楽しい限りである。（全く思いが違うところにあるのかもしれないが……）

昨年、日南市さんが蒔かれた「大人から子どもへ主役を引き継ぐという新しい種」をしっかりと育み、芽生えさせていた大会だった。私は、茂木町の大人の方々は言うに及ばず、児童や生徒の皆さんの一所懸命の姿に触れ、この会があたらしいステージへと歩を進めたのだと感じた。と同時に、「日本の農山村を守るためには、山村に住む者のみでなく、都市住民との協働が不可欠であるという千枚田オーナー制度発足の原点」を再確認できたサミットでもあった。

茂木町の皆さん、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

今、「日本の棚田よ、未来永劫なれ!!」と改めて叫びたい。

2008年　第14回開催地は長崎県雲仙市・長崎市に決定！

2009年　第15回開催地は新潟県十日町市に決定！

事務局ニュース

事務局、宮崎県日南市からのお知らせコーナーです。

第13回全国棚田（千枚田）サミットが栃木県茂木町で大成功の内に終了し、次期開催地長崎県雲仙市・長崎市にバトンタッチすることができました。成功に向けご協力頂いた関係者の皆様に厚くお礼申しあげます。

さて、今回のサミットでは中山間地域の共通課題についての「政策提言」をまとめたところです。今号のライステラスp5でも紹介していますが、この政策提言につきましては、関係機関等に提出して施策反映を図って参ります。

また、今年は中山間地域等直接支払制度2期目の中間年となり、対象地区ではその成果を検証しなければなりません。理事会でも、制度があったからこそ農地の維持のみならず、集落の維持活性化ができたことの報告がありました。私たちは、これまで取り組んできた制度の意義や必要性を訴え、全国各地から継続のうねりをつくっていかなければなりません。

話は変わりますが、当協議会団体正会員であるアストラゼネカ（株）の社員の皆さんが10月10日に全国50カ所でボランティア活動を展開されました。2年目の取り組みで今年は10カ所拡大し、日南市坂元棚田でも作業を実施しました。通常の農業生産活動では接点の無い世界規模の製薬会社が、地方の高齢化が進む集落へ自ら出向き、中山間地域の農業農村の現状について身をもって理解することの意義深さは、誰よりも受け入れた地元の皆さんが一番感じたものと思っています。棚田保全への理解が少しずつではありますが、着実に広がっていることを確信しています。

（追伸）

棚田連絡協議会のホームページでは、皆さんの地域での出来事について掲載できます。ご希望の方は事務局までご一報ください。

平成19年度も折り返しました。年会費について、納入がまだお済みでない方は、早めに納入をお願いします。

2008年 第14回全国棚田サミット開催地より

日程：2008年10月16日(木)～18日(土)

第14回、2008年の長崎県雲仙市（長崎市との共同開催）開催に向けて

長崎県雲仙市長　奥村 慎太郎

第13回全国棚田サミットは、古口茂木町長と田上長崎市長、そして雲仙市長の私の固い握手で幕を閉じました。長崎県雲仙市からは雲仙市千々石町の棚田保全グループ「岳棚田プロジェクト21」をはじめ大勢が、色鮮やかな法被を着て次期サミット開催を元気良くアピールさせて頂き、その熱気が茂木サミットを盛り上げる一端を担うことができたのかなと思っております。

２００８年、第14回全国棚田サミット開催は、長崎県雲仙市と長崎市の共同開催が決定しております。日程は10月16日（木）～10月18日（土）に決まり、詳細については、開催テーマをはじめ、分科会の実施など開催スケジュールについて現在、調整を図っているところであります。

さて、雲仙市は、豊かな自然に包まれ季節ごとにその装いを一変させながら色鮮やかに様変わりし、言い尽くせないほど見事な姿で、訪れた皆様に感動を与えてくれる日本で最初に国立公園指定を受けたところであります。

また、雲仙市千々石町岳地区の「清水棚田」は、雲仙岳麓の標高３５０～４００mにあり、雲仙岳の中腹に源をもつ清流「清水川」沿いに広がり、目を見張るほど頑強な石積みで形成された郷土の貴重な遺産とされているものであります。

来年の第14回全国棚田サミットは、九州では5回目になる日本最西端での開催、雲仙市の皆さんがサミット開催をかねてから望み、お待ちしております。日本全国の棚田地域、棚田農家の方々、棚田を愛する人など大勢が集い、人々の心が行き交う素晴らしいサミットとなりますよう万全の準備をさせて頂き、しっかりと取り組みますことをお約束したいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

長崎市「大中尾棚田」が皆さんをお迎えします

長崎県長崎市長　田上（たうえ） 富久（とみひさ）

第13回全国棚田（千枚田）サミットのご成功おめでとうございます。

茂木町サミットには私も次期開催地を代表して参加させていただきましたが、開催地の皆様や連絡協議会の皆様方には、大変お世話になりました。至るところで心温まるおもてなしに接し、いたく感激いたしました。また、参加者の方々からも次期開催に向け多くの激励の言葉をいただきました。サミットへの参加を通して、皆様の棚田を守っていこうとする強い信念が感じられ、深い感銘を受けると同時に、次期開催地としていよいよ来年は私たちの番だと、身の引き締まる思いを新たにしたところです。

長崎市は、九州の西端、長崎県の南部に位置し、人口約45万人の国際平和都市として知られています。その北部の外海（そとめ）地区に「大中尾（おおなかおた）棚田（なだ）」があります。起源は戦国時代から江戸時代とされ、近くに水源がなかったため、山奥の神浦（こうのうら）川上流から約4.2kmもの水路を難工事により造ったと言われております。現在は一部がダムの底に沈みましたが、面積は8ha、田んぼの枚数は４５０枚となっています。平成11年に「日本の棚田百選」に認定された後、翌平成12年には県の指導を受けながら、都市農村交流対策事業（グリーン・ツーリズム）に取り組み始めました。

平成14年には「大中尾棚田保全組合」が組織され、米作り体験の受け入れや県下初の棚田オーナー制度をはじめ、案山子コンテストなど、精力的に棚田保全活動を行っています。昨年からは、カメラを通した棚田の自然景観、四季折々の棚田の風景を多くの人々に知ってもらうため、フォトコンテストの開催を始めております。２回目の今年は８月末に募集を締め切りましたが、35名の応募者から１１３点の作品が出品されました。棚田の四季を見事に表現した作品、棚田を守る人々の息づかいが感じられるすばらしい作品などが数多く集まりました（p16にて紹介）。棚田保全組合のこのような地道な活動は、未来への棚田の保全に脈々と通じていくものと信じてやみません。

第14回全国棚田（千枚田）サミットは、平成20年10月16日から18日まで、長崎市・雲仙市で開催されます。今年6月には、両市の関係者により「第14回全国棚田（千枚田）サミット実行委員会」を立ち上げ、雲仙市長の奥村会長を筆頭に、現在皆様方をお迎えする準備を進めております。

先人たちが残してくれた棚田を守るため、私たちはどうすればよいのか、〝長崎〟で大いに語り合おうではありませんか。全国各地から一人でも多くの方々にお越しいただきますよう切に願っております。

今後サミット開催に向けても、いろいろとお世話になることと思いますが、引き続き皆様方のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

お便りテラス

私は、今回の茂木町サミットには不参加でした。但し、会員の一人として、取り組んできたこと、サミットのあり方について、私見を記します。

1、茂木町サミットPRのために

イ、PR用チラシを早くから地元関係機関に配布。大きなポスターも家の近くに掲示しました。

ロ、日程の内容が未定の段階から、茂木町と何回か交渉し、私の希望を伝えました。但し、結果はダメでした。それは、日南サミットでは分科会がなく、それゆえ、今年こそは、と思いましたが、日程の関係で無理とのこと。サミットでは、参加者の意見交換が一番大切だというのが、私の持論。ただ、話を聞くだけのサミットは、無意味ではないでしょうか。来年の長崎・雲仙サミットには、是が非でも分科会を設けてほしいと要望を伝えました。

2、サミットのあり方について

○マンネリ化になっていないか

茂木町サミットでは、「棚田から明日への提言」というユニークな取り組みで、欠席者にも配慮して頂き、大変うれしく、ありがたかったです。独創性があったと感じました。

○サミットの日程の決め方（日時は別内容）

いつ、どこで、誰が、決定するのかは定かではありません。会員にアンケートを出してみてはどうでしょうか。

○宿泊

ホテル、民宿が定番（旅行業者へ一任）。可能ならば、現地の棚田農家に民泊という案は、如何でしょうか。サミットでは得られない情報があるかも。

○サミットの開催地

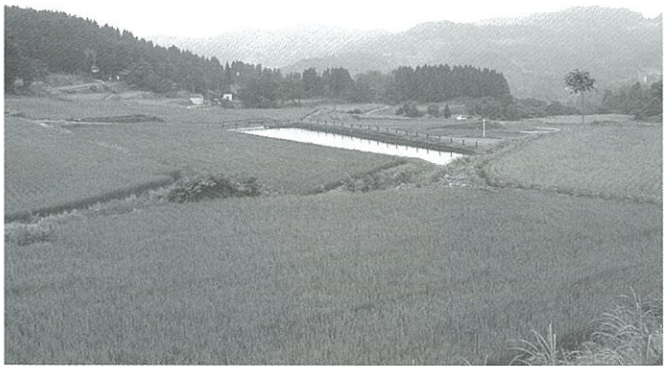
九州に偏りすぎています。四国・中国、北陸地方にも棚田はあります（受け入れ県の問題?）。

○サミット展示

サミット参加者に、棚田への思いを一言書いてもらい、会場に全部展示してはどうでしょうか。

犬塚雅敏（静岡県浜松市在住・個人正会員）

紹介します！ 新潟県上越市安塚区 坊金（ぼうがね）集落



坊金集落は、新潟県南西部の長野県と県境を接した旧安塚町にあり、総世帯数は57戸、人口は約170人、標高130m付近に集落があり、標高500m付近まで棚田が続いている典型的な中山間地域です。

冬季には積雪が3mにも及ぶ環境の厳しい地域で、過疎化・高齢化が進むなか集落が崩壊するという危機感から、地域住民がまとまって活動を行うことで合意し、昭和50年という早い時期に成壮年会を設立し、農業の持続と集落の活性化に向けた取組みを始めました。

基盤整備を行い、条件の悪い農地を保全することにより営農の継続に努め、さらに荒廃地をビオトープにするなど自然保護にも積極的に努めています。また、旧東頸城（ひがしくびき）郡の6町村で実施している「越後田舎体験」事業に参加し、都市の修学旅行生を受入れ、農家民泊や農作業体験をとおした交流も行うなど非常にがんばってきました。このような取り組みが認められ平成17年度農林水産省の豊かなむらづくり表彰事業の北陸農政局長を受賞しています。

平成19年度から始まった経営所得安定対策等、農業を取り巻く情勢が大きく変動する現在、坊金集落では将来のあるべき姿、よりよい方向を見据え、法人化を含めた新しい集落営農の形態を模索しているところです。

（新潟県上越市安塚区総合事務所　産業建設グループ　岩野三良）

会員募集中

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織

全国棚田（千枚田）連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

宮崎県日南市　農林水産課

〒887－8585宮崎県日南市中央通1丁目1番地1
TEL：0987-31-1132（直）
FAX：0987-24-0080
協議会HP:http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/

新しく会員になったみなさま

<自治体会員> 新潟県佐渡市　栃木県那須烏山市

<個人賛助会員> 間瀬木　績（愛知県）

編　集　後　記

第１３回全国棚田（千枚田）サミット、熱い盛り上がりをみせてくれました。茂木町のみなさんの心からのもてなしがとてもうれしかったという声を聞いています。関係者のみなさま、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。来年は、長崎県雲仙市・長崎市です。楽しみにしつつ、みんなで盛り上げていきたいですね。

さて、次号の特集は、今回のサミットの提言のなかにも登場した「鳥獣害対策」を予定しています。どうぞ情報をお寄せください。お待ちしています。

石井里津子

高石垣の上。清水棚田

雲仙市、清水棚田

長崎県 雲仙市

出穂時の清水棚田

展望所より　補植をする風景

2008年全国棚田サミット開催地から

長崎県 長崎市

特選受賞作品
松本正平「田植え前日」。第２回大中尾棚田フォトコンテスト2007より

特選受賞作品
亀本正子「オーナー家の田植え景」。第２回大中尾棚田フォトコンテスト2007より

大賞受賞作品
小松賢二郎「棚田の秋」。第２回大中尾棚田フォトコンテスト2007より